

成果の説明書

(氏名) 関口 智子	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 教育</p> <p>① 必修英語クラスにおける e-Learning 教材確認テストの継続</p> <p>2014 年度より学生の e-Learning による定期的自習を促すための授業内確認テストを導入しているが、2015 年度も継続して実施した。昨度前期は、OHC による問題提示、紙媒体による解答の回収という手法であったが、後期は CALL 教室の Calabo の小テスト機能を用いペーパーレス化を試みた。2015 年度は、前期から Calabo を使用し、テスト実施の効率化を図った。</p> <p>② 両学部英語カリキュラム一元化に向けた準備</p> <p>2014 年度後期より、経済学部の英語教員との合同英語部会で、両学部英語カリキュラム一元化にむけて検討を開始した。必修英語科目は、少人数クラス導入、発信力の養成、授業内容を反映した成績評価などを柱とし、選択英語科目は、内容の多様化を図るとともに、新たな副専攻制度を立案した。</p> <p>まず、2015 年度は、教室数と開講クラス数との観点から、少人数クラスの実現可能性を確認した。また、必修英語 2 科目の内容を詰め、各 4 レベルの担当者を決定した。選択英語科目は、最終的な科目の名称および担当者を決定した。</p> <p>2017 年度実施にあたり、新たに 10 数名の非常勤講師の採用が必要となる。新カリキュラム用の採用に際し、両学部統一の応募条件の基準、採用条件の原案を作成した。</p> <p>③ 「グループ研究」履修学生の通訳コンテスト出場に向けた指導</p> <p>2014 年度より開講の「グループ研究 I,II」では、通訳訓練法を取り入れた英語能力向上をめざす少人数クラスの授業を行っている。毎年 12 月初旬 (2015 年度は 11 月末) に「学生通訳コンテスト」を開催している名古屋外国語大学より、コンテストの推薦枠 (1 名) をもらい、前期および後期のクラスを通年で履修していた学生 1 名をコンテストに推薦した。コンテスト出場にあたり、あらかじめ通訳すべき対談のトピックが与えられていたので、事前に内容をリサーチし、語彙リストを作成するなど、授業以外で個別指導を行った。2015 年度のテーマは “Migration Issues in a Global World” で、移民の歴史、移民政策、多文化社会など関連領域に関しても知識を広げることができた。コンテストでは、残念ながら本学の学生は入賞できなかったが、他大学の学生と交流で刺激を受け、英語学習のさらなる動機づけとなった。</p> <p>(2) 研究</p> <p>出版論文：</p> <p>「英語冠詞指導再考」 専修大学外国語教育論集 第 44 号、pp. 145~pp.166、 2016 年 3 月 専修大学外国語教育研究室</p> <p>英語テキスト：</p> <p><i>Connection 4, Advanced Level (Series of Graded Readers)</i> 2015 年 4 月 松柏社 / Cengage Learning</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>3 月に、英語非常勤講師の教員連絡会を開催し、授業運営の確認などを行った。</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

2017年度より実施予定の英語カリキュラム一元化に向けて、両学部の英語教員とともに準備を進める。今後、新たな非常勤講師の採用、シラバスの作成、テキストの選定、担当者配置など、新カリキュラムが円滑に実施されるよう取り組みたい。